

すぎ きのもっくんには、たくさんのきょうだい兄弟がいました。
みんなはなかよく暮らしていました。
でも、ちょっときゅうくつ窮屈です。
「このころ、お花はなさが咲かないね。」
「むしあそびに来ないね。」
「むかしにぎはとても賑やかだったのに・・・。」
いまうすぐら今は薄暗く、ひっそりしています。







そんなある日、事件が起きました。
兄弟たちが、次々に切られていったのです。

気がつく^きと、もっくんも転^{ころ}がっていました。

辺^{あた}りは暗^{くら}く、土^{つち}はじめじめしています。

もっくんが言^いいました。

「ぼくたち、切^きられたの？」

キリコが言^いいました。

「そうみたい。私^{わたし}たち、どうなってしまうのかしら。」

だいまる兄^{にい}さんが言^いいました。

「誰^{だれ}かが切^きられなけりゃ、森^{もり}は死^しんでしまうんだよ。

仕^{しか}方^たないのさ。」

「え～ん。ぼく、こんなの嫌^{いや}だよお。」

もっくんは、いつしか眠^{ねむ}りにつきました。

